

# 自己点検・自己評価報告書

令和5年3月31日現在

学校法人 富山大原学園  
富山大原簿記公務員医療専門学校

令和5年6月19日作成

責任者 増田正夫

記載者 名越 豊

## 1. 実施方法及び結果

令和4年度自己点検・自己評価の実施にあたっては、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

自己点検・自己評価の範囲は、上記ガイドラインの例示をベースに次の8項目に大別し、各項目ごとに点検・評価項目としての指標を設定した。

- |            |         |         |              |
|------------|---------|---------|--------------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 | (4)学修成果      |
| (5)学生支援    | (6)教育環境 | (7)学生募集 | (8)社会貢献・地域貢献 |

実施方法としては、教務、就職、広報、総務に所属の管理職職員(課長職以上)が、担当する各指標(点検・評価項目)について年度実績に基づいての点検・評価を行い、「自己点検・自己評価表」に記述する形式とした。各指標には4段階の評点を付し、その評価は「4…適切、3…おおむね適切、2…やや不適切、1…不適切」としている。平均点とは評価1～4を点数化し、各項目の平均値を算出したものである。

### (2) 今後の予定

今後の予定として、令和4年度自己点検・自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施することを最優先課題に掲げる。今回の自己評価結果の客観性と透明性を高め、学校の質の保証・向上のなお一層の取組充実を図るよう努めるとともに、外部関係者の方々との連携協力を通じて学校への理解を深めていただけるよう努める。

また、自己点検・自己評価の各項目において、「適切」または「おおむね適切」と評価した項目については、より一層の評価向上を図るために新たな指標を設定して、その維持・発展に努める。一方で、「やや不適切」または「不適切」と評価した項目については、今後の優先取り組み課題として、教職員連絡会議等の場において改善方策を協議する。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

評価項目	平均点(4点満点)
・学校の理念・目的・養成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3.8
・学校における職業教育の特色は何か	2.8
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.3
・学校の理念・目的・養成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	2.8
・各学科の教育目標、養成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	1.8

#### (2). 学校運営

評価項目	平均点(4点満点)
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	2.8
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.8
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか、有効に機能しているか	2.5
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.5
・業界の地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.5
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.5
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.3

#### (3). 教育活動

評価項目	平均点(4点満点)
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.3
・教育理念、養成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間は明確にされているか	3.3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.0
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.0
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.0
・関連分野における実践的な職業教員(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	2.0
・授業評価の実施・評価体制はあるか	2.3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.3

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.3
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.7
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	1.3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	2.0
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	1.3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	1.7

#### (4). 学修成果

評価項目	平均点(4点満点)
・就職率の向上が図られているか	3.7
・資格取得率の向上が図られているか	2.7
・退学率の低減が図られているか	2.0
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	1.7
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	2.0

#### (5). 学生支援

評価項目	平均点(4点満点)
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.0
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.0
・学生の経済的な側面に対する支援体制は整備されているか	3.7
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	1.7
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.0
・学生の生活環境への支援は行われているか	2.3
・保護者と適切に連携しているか	2.3
・卒業生への支援体制はあるか	2.0
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.7
・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.0

(6). 教育環境

評価項目	平均点(4点満点)
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.0
・防災に対する体制は整備されているか	3.3

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	平均点(4点満点)
・学生募集活動は、適正に行われているか	3.5
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5
・学納金は妥当なものとなっているか	3.5

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	平均点(4点満点)
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.3

令和5年6月19日

教務部長 名越豊

## 令和4年度自己点検・自己評価報告書

表題の件につき、下記の通りご報告いたします。

1. 対象期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日の1年間

2. 基本指針

当学園の基本理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶をもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかなどについて学校関係者評価委員会を設置し評価をするものとする。

3. 目的

### (1)改善へのサイクル（PDCA サイクル）の強化

「目標設定→施策立案→実施→自己点検・評価→改善→目標の再設定」という自己点検・評価サイクルを強化するとともに、本学における教育研究活動等の「改善・改革」に資する「自己点検・評価」を実施することにより、本学の諸活動全般の質的向上を目指す。

### (2)社会に対する明確な説明責任の履行

自己点検・評価結果を含む本学の諸活動全般に係る適確な情報発信と、認証評価及びその他の第三者評価の結果の公表等を通じて、本学の諸活動全般について社会に対する説明責任を果たすとともに、社会的信頼を高める。

4. 評価内容及び結果 P 2～5

5. 所見（教務部長 名越）

各項目で点数化(4点満点)し、項目ごとの課題や改善方策などまとめた

### (1) 教育理念・目標

#### 【所見】

・令和5年度より新分野（工業）を立ち上げに際し、設備、カリキュラム、教員、企業連携等図られていない。地元情報系企業では“資格取得”を推奨しており、これと並行し、より高度な“実践教育”を行う必要がある。現状は満足度が高い教育の提供ができておらず、環境（設備、企業連携）と人材の採用・育成（卒業生で経験者の採用が理想）が急務である。

・

### (2) 学校運営

#### 【所見】

・令和4年度より iPad 授業運用、機器を教職員および学生が保有することにより、システム構築を整備し、様々な情報の共有（学内学生人数把握、休校案内等）を目標としていたが、いまだ構築整備が進んでいない。

・人事発表が遅く、組織業務分掌や事業計画（カリキュラム作成）に大きな弊害が生じている。

### (3) 教育活動

#### **【所見】**

全分野においてエキスパートを配置しているとは言い難い。積極的な外部との連携（企業実習やインターンシップの積極促し、エキスパート授業等）が急務である。また、教員研修実施が少なく、職員間の共有が希薄である。また、コロナ禍や育休支援、退職者の補充がない中で、人員不足が慢性化しているため、質の向上に取り組めない状況にある。具体的には授業指導、生活指導、マナー指導が職員間でレベル差が出ている。令和3年・4年度の急激な入学者増に学校が対応できていない（対応が追いつかない）状況であった。

今後は経営ビジネス系や情報IT系での企業連携、医療事務系の学外授業（見学や実習）の再開、インターンシップ促進、カリキュラムへの企業連携授業の落とし込みが急務となる。定期的な研修（外部講師）を取り入れるなどし、統一目標の共有を図りたい。

### (4) 学習成果

#### **【所見】**

・退学者増加だけでなく、休学者の増加も大きな問題としてあげられる。様々な理由で学校へ行けない学生が増えており、学校としての対策が不十分である。

・昨年度も課題に挙がった“卒業生支援”であるが、人員不足等により遂行できない状況である。

### (5) 学生支援

#### **【所見】**

コロナ禍での学生健康管理を担う組織体制等が不十分であった。特に、体調不良学生に対応できる設備や人材がなく、職員への負担が重いのが現状。

### (6) 教育環境

#### **【所見】**

慢性的な教室不足により、限られたカリキュラム編成しかできない。駅周辺での教室借り上げなど検討しなければ、教育上必要な対応（実習ができない、企業連携が取れない）ができない恐れがある。

### (7) 社会貢献・地域貢献

#### **【所見】**

新型コロナウイルスの影響もあり、十分な対応ができなかった。しかしながら、デザイン学科、ホテルブライダル学科による富山県私学祭運営、富山駅中でのサマーウェディングイベントの実施、2年生による岩瀬浜清掃活動、花火大会ボランティアなど『地元富山県への貢献』をスローガンに取り組めたことが収穫であった。